



奇襲式に出席した坂上さんは、「花が綺麗に咲いたら、姉の遺影と一緒に訪ねたい」と話していました

## 校庭に花をたくさん咲かせてほしい 須木小学校に植栽費を寄付

9月1日、坂上弘子さん（細野）が、花壇の整備に役立ててほしいと須木小学校に植栽費を寄付しました。弘子さんの姉の故・坂上正子さんの学校に花をたくさん咲かせたいという意向と、弘子さんが同校の綺麗に手入れされた花壇に感銘を受けたことがきっかけで寄付が実現。目録を受け取った児童は「お花を植えて大切に育てたい」と話していました。

## 郷土の伝統を受け継ぐ

8月25日、紙屋小4年の児童が郷土芸能を学びました。紙屋城攻めおどり保存会の手塚稔さんが、実際に使用する道具を使って踊りの由来や歌詞、動作の意味を説明。児童による紙屋城攻めおどりは、運動会やほぜまつりなどで毎年披露されています。



## 防犯灯の点検交換ボランティア

9月2日、小林地区電気工事業協同組合のボランティア活動が行われました。「電気使用安全月間」にあわせて20年以上続いている活動で、野尻地区では5つの事業所が通学路を中心に、25カ所の防犯灯の清掃と電球の点検・交換作業を行いました。



## 事業のバトンつなぎ明るい未来へ 事業承継推進の連携協定を締結

8月30日、小林商工会議所（税所篤朗会頭）と継業マッチングサイト「relay」を運営する(株)ライトライト（齋藤隆太代表取締役）が事業承継に関する連携協定を締結しました。近年、高齢化や後継者不在で全国で地域の商店などの廃業が増加。両者は「relay」を活用して後継者を募集する企業と継業希望者をつなぎ、「第3者承継」を推進します。



齋藤代表は「高原町では首都圏から移住して承継した事例がある。地域活性化のためにも、移住につながる成功事例をつくってきたい」と話していました

## 学校給食で小林産ピオーネを堪能

9月7日、市内小学校などの給食に小林産ピオーネが提供されました。コロナ禍で消費が落ち込む農産物を提供することで消費拡大や地産地消を推進し、子どもたちに郷土愛を深めてもらおうと昨年からの実施。9月3日には中学校などにも提供されました。



## 市内最高齢の鶴丸さんを祝う

9月15日、敬老の日にあわせ市内最高齢の鶴丸百合子さん（108歳）を宮原市長が表敬訪問しました。鶴丸さんには賞状と記念の花（西諸県地区花き振興会提供）が贈られました。なお9月1日現在、市内の100歳以上の高齢者は80人（男7人女性73人）です。



山之上代表は「地元には優秀な人材が揃っていることが強み。今後はUターン者の採用にも力をいれていきたい。」と新工場の意気込みを話しました

## (株)ミヤザキと企業立地協定 5年間で新たに70人を雇用予定

8月23日、合成樹脂加工製品の製造を行う(株)ミヤザキ（山之上道廣代表取締役）九州第7工場の新設に伴う立地調印式が市議会の森田哲朗議長、県企業立地推進局の山下弘局長立ち会いのもと開催されました。第7工場は来年3月に操業開始予定。5年間で70人の雇用を見込み、地域経済活性化の弾みとなることが期待されます。

## 子育て支援センターへ空気清浄機寄付

8月26日、グリーンシティこばやし株式会社（前田喜輝代表取締役）が、市子育て支援センター「チポリーノ館」へ空気清浄機を寄贈しました。チポリーノ館の中園真寿美さんは、「空気清浄機を活用して安心安全な環境づくりに努めたい」と話していました。



## 地方で働けるアニメーターを育成 雇用や観光振興に向け協定

8月20日、(株)RICE FIELD（田原麻美代表取締役社長）と小林まちづくり(株)（柗崎庄二代表取締役）、小林市の3者が地域活性化包括連携協定を締結しました。アニメ制作の人材を育成し、在宅でもできるアニメ制作の仕事を提供する(株)RICE FIELD社の事業と連携し、雇用の創出や観光振興など、地域活性化を目指します。



田原代表（写真①）は「宮崎で暮らしながらアニメ業界で働く人材を育て、地域活性化につなげていきたい」と話しました

## 子うさぎ文庫が文部科学大臣表彰受賞

7月29日、RCC子うさぎ文庫（坂下実千代代表）が、子どもの読書活動優秀団体として文部科学大臣表彰を受賞し、県庁で伝達式が行われました。子うさぎ文庫では、季節ごとの読み聞かせや赤ちゃん読み聞かせ会、保育園などでの読み聞かせなどを行っています。



## 細野三区、細野まちづくり協議会が宝くじ「コミュニティ助成事業」で備品を整備

一般財団法人自治総合センターの宝くじ社会貢献広報事業「コミュニティ助成事業」の助成を受けて、細野三区は空調機や備品を整備、細野まちづくり協議会は発電機とスポットクーラーを整備しました。これにより、地域コミュニティ活動の発展や活性化を図るための環境が整いました。同助成金は宝くじの受託事業収入を財源としており、全国で社会のために役立てられています。



細野三区が整備した備品（写真①）と細野まちづくり協議会が整備した発電機（写真②）・スポットクーラー（写真③）